

## 平成30年度11月教育委員会 会議録

開催日時	平成30年11月19日(月) 13:30~15:00	
開催場所	町民総合会館 2階 研修室	
出席者	委員	徳山順子教育長、大森茂委員、竹井成範委員、栗坂祐子委員
	事務局	黒木克美生涯学習課長、貝畑和明学校教育課長、猪木浩二課長補佐、大部桂嗣主事
会議次第	1 開会 教育長あいさつ 2 議事・報告案件 (1) 早島町立義務教育学校開校に向けた検討について (2) 第1回学校評価アンケートについて (3) 来年度の施策について (4) その他 3 連絡	
会議資料		
傍聴者	なし	
会議録作成者	大部 桂嗣	

### 会議内容

#### 1 開会

##### 教育長あいさつ

教育長：先日の11月6日の市町村教育委員会委員研修会ではお世話になりました。私は意見交換会のテーマ2「運動部活動の在り方について」において、部活動指導員の活用の在り方について、本町の取組状況を市町村代表で話をさせていただきました。周りからの好評で、どこの市町村も部活動の在り方について考えているようです。また、ゆるびの舎20周年記念事業では、三遊亭円楽さんと春風亭小朝さんの落語会を行い、満員御礼でした。ゆるびの舎の誕生を「大きな笑い」でお祝いすることができました。こうした著名な方をお呼びし、会を開くことは、地域の方にとっても楽しみは増えることであり、これからもぜひしていただきたいと言われました。11月4日には、いきいき広場があり、ボルダリングやスラックライン、ぼっちゃんの体験活動も好評でした。環太平洋大学から多くの留学生が

ボランティアとして参加していただき、多くの人出もあり、大いに盛り上がりました。11月11日には第88回ソフトボール大会があり、熱戦が繰り広げられました。地域の応援団も参加していただき、盛り上がりました。11月13日には小学校でESD研究発表会を公開し、県内外から多くの先生方にお越しいただき、大きな学びがありました。2月には研究のまとめを行い、文部科学省で発表することになっています。11月22日、23日には花ごぎピンポン世界大会が開催され、世界に大会には128名の申し込みがあり、県知事も来られ、一緒に花ごぎピンポンをしてくださいました。生徒の開発したイ草スイーツやデコまきもカフェで食べられ、地域の方も応援に来てくださいました。今、中学二年生が、IGUSAを使った商品開発も行っており、キャリア教育の一環としての起業体験は、探究活動の質の向上につながっていると思います。

## 2 議事・報告案件

### (1) 早島町立義務教育学校開校に向けた検討について

猪木課長補佐：平成28年3月に早島町一貫教育検討委員会審議報告があり、それをもとに進め方を検討してきており、具体的にどのように義務教育学校の方向性を作っていくのか、今まで教育委員会の中で検討したものをまとめている。特に問題となるのが施設のこと、一体型で進める方がよいとの結論は出ているが、コストとの関係で、併設型も視野に入れて、大きな視点で考えていく必要も出てきた。ただ、義務教育学校としての開校を目指すということは意思統一ができていくというのが現状である。

建設場所についてだが、既存学校の小学校へ統一するのは難しいので、統合するなら中学校なので、一つ目は中学校に統合増築の案。二つ目は、今の小・中学校をなくして、新たな場所に新設する案。様々な選択肢があろうが、コストとの関係も含め、まだ限定はできない。あらゆる可能性を考え、一体型の義務教育学校を検討していく。

施設の状況だが、早島小学校の所在地は、町の真ん中の早島公園の南側に位置している。敷地面積が15,082㎡で、小学校の児童数に対して、小学校の建物面積は1,500㎡から2,000㎡ほど少ない状況にある。建築年数は、一舎は49年が経過している。新しいものでも36年が経過している。この老朽化した校舎を長寿命化するのか、改築するのか、どちらにせよ学校を維持していくためには、経費がかかる。

次に早島中学校だが、町内でも西側でインターの南側に位置している。敷地面積が20,926㎡。建物敷地が11,049㎡、運動場が9,877㎡。建物面積が4,804㎡、中学校の方は、生徒数に対する必要面積よりも少し大きい。建築年数だが、小学校と同じく49年経過しており、一番新しいものでも30年を超えている。ほとんどが老朽化している現状で、これから維持管理していくにしても経費がかかることがわかる。

こうした状況を鑑み、これからどのような学校運営、学校施設管理をしていくのか、一つの論点として挙げていただければと思う。これから開校までのプロセスを、10年を目安に案を考えた。今年度まで第一ステージの判断期ということで、学校教育ビジョンの全

面実施、管理職によるビジョン推進委員会のもと全教員による四部会の協議を深め、カリキュラムの作成等を行い、義務教育学校の先進地視察に行くなど検討した中で、一体型の義務教育学校をしていくという判断をここでしている。来年度2019年度から「構想期」ということで設定している。義務教育学校整備検討委員会をここで発足し、3年間をみている。施設面では、義務教育学校の敷地を選定する。土地利用、統合した場合はその跡地をどうするかも同時に検討していく。カリキュラムも小中学校が連携・協力して、実態に即し、9年間を見通した児童生徒の成長を目指す教育を研究していく。その3年間で義務教育学校整備基本計画を立てる。その次年度から「具体期」ということで第三ステージに入る。施設面では、具体的に通学路などをどのように整備していくのかを検討していく。カリキュラムの再構築や、組織分掌の見直し、条例規則改正案、校名・校歌等も検討していくと考えている。決まったことについては常に情報公開していくべきなので、住民に対しての説明や要望アンケートなどをしていく必要がある。これも「具体期」として3年間で設定している。次が第4ステージの「整備期」。2年間をかけて実際の建築に入っていく。2027年度までに開校ができればというスケジュールの設定をした。

教育長：これらの内容について、ご意見はないか。このあとの総合教育会議でも検討していく予定である。

猪木課長補佐：大和リースの資料を引用する。民間活力を利用したPFI方式。民間の事業者が民間で資金調達をする。公共工事ではなく、民間の方が建てたものに対して、市町村がお金を支払っていくという事業のこと。設計等の予算は含まれているが、行政側としては、事業者側の提案に対して、評価し事業者を決める。そういった方法で建てている学校も多い。もう一つに、リース方式があるが、リース方式は、民間に建ててもらい、20年～30年かけて支払う方式であり、予算の均等化が図れることが大きい。これらの方式の利点は維持管理もしてもらうことができること。仕様の中に維持管理のメンテナンスも含むことができる。メンテナンスをしやすい建物にすることは、事業者にとってもメリットであり、効率的な施設を建てられる一つの手法である。

教育長：先が見えにくいところもあるが、一応10年後を目指して計画を立てている。「

大森委員：PFIの略は？

猪木課長補佐：プライベート ファイナンス イニシアティブ (Private Finance Initiative)。

竹井委員：着地点を決めてスタートする。住民に説明するときにも、わかりやすい説明をするとよい。

猪木課長補佐：まんのう町は、中学校をPFIで建築していた。15億円の25年間。建物だけなので、維持管理を含めるともう少し高くなる。

教育長：中学校はまだ使えるのではないかと言う声もあるが、小学校を新しくすると今度は中学校が古くなってしまう。

竹井委員：いろいろな問題はあるが、最大の問題はお金。100億円余裕があるのかなら

別だが、そうでないなら、まずは着地点から決める。どこに建てるかだ。

猪木課長補佐：PFI事業をするときにするのがサウンディング調査。民間が参入してそれが商売になるかを調査する。

竹井委員：民間に事業が成り立つかを聞くことから始める。その許可を町長にとる。

猪木課長補佐：工事の場合は仕様書がある。PFIの場合は、要求仕様になる。

教育長：いろいろとご意見をいただいたので、次の総合教育会議でも検討したい。

## (2) 第1回学校評価アンケートについて

教育長：次に学校評価アンケート結果。項目を絞って小1から中3までを並べた。「学校に行くのが楽しい」の質問にそう思うと回答したのは18.3%で、まあそう思うの回答を合わせると90%近い。そう思わないという生徒が10%いる理由を分析し、対応していきたい。「学校の授業はわかりやすい」にそう思うと回答した生徒は8割ほどだが、学年が上がるにつれて減少している。魅力的な授業づくりを検討していかなければならない。「私は、家で苦手な勉強の勉強をしている」の質問からは、してない人が多いことがわかる。得意な教科はするが、苦手な教科は手を付けられない児童生徒が多いのがわかる。小1から中3で並べることで何が見えるかを先生方にも考えてもらう。「私は自分で計画を立てて勉強している」という数値も低い。「私は周りの友達から認められていると思う」「私は、相手の人権を意識した言葉づかいや態度で接している」「私は悩み事や困ったことを相談できる先生がいる」という数値を増やしていくよう取り組んでいく必要がある。保護者へのアンケートでは、「地域の子どもたちに声掛けをしている」という項目が低い。「あなたのお子さんは地域の方へ進んで挨拶している」「地域の大人は子どもの手本となるようにルールを守っている」という項目も低い。最後に、「あなたはお子さんと絵本を読んだり読書する時間を作っていますか」「あなたのお子さんは家庭で読書をしていますか」「あなたは計画的に勉強するように子どもに促していますか」という項目については、保護者の方の協力を仰ぎ、学校と一体となって取り組んでいきたい。家庭での生活リズムや学習リズムを高めたい。

大森委員：先生に対する質問などはないのか。

教育長：これは、抜粋しているだけで、教員アンケートも当然している。学校評価は、児童生徒アンケート、保護者アンケート、教員アンケートがあり、第1回は7月、第2回は12月に行い、経過を見たり、経年比較ができるようになっている。共通項目を20項目と、学校園独自の項目も入れてよいとしている。4段階で評価していただき、それを集計・分析し、改善策を考えている。これらの資料は、Aの数が多いものから順に並べており、見やすくしている。学年ごと、クラスごとに見るとわかりやすい。「計画的に勉強する」「苦手な教科を勉強する」の項目は、岡山県も早島町も、低い。学年が上がるにつれて高くなるべきであるのに、中学校は学年が上がるにつれて下がってきている現状が見られる。こうしたアンケート結果をご覧いただき、気になることやご意見があればいただきたい。

大森委員：経年比較ができるのがよい。ぜひ経年比較を見たい。

栗坂委員：小学4年生が特に気になる。「学校に行くのが楽しい」と「授業が分かりやすく楽しい」などは教室に居場所があって、安心して学べる環境であれば高くなるはずなのに、それらが連動して低くなっているというのは、子どもたちが不安定だったり、学校の中で充実感がないように感じているのではないか。

教育長：4年生は大事な時期であり、教員もこの結果を見て、改善に取り組んでいると思うが、12月のアンケート結果で確認したい。

栗坂委員：4年生が上手に過ごせると、後の学年もよくなると思う。中学年にもっと手をかけていくべきだと思う。

竹井委員：データで見て初めてわかることもある。具体的に示すことで先生の対処の仕方もわかってくると思うので、これを活かして改善を図っていただきたい。

### (3) その他

教育長：現在、来年度に向けて、幼稚園に給食の導入を考えている。英語教育の充実を図っていきたいが、今後は夏休みのホームステイ制度等も検討したい。

竹井委員：短期留学とは語学のためのものなのか。

教育長：それもあるが、世界を見て視野を広げさせたい。

竹井委員：語学留学は短期間では難しいが、世界を見るという意味では、大使館、領事館に行かせてみる方法もある。

栗坂委員：今、小学校は高学年で一部教科担任制をしているのか。

教育長：小学校の英語は専科で行っている。音楽や家庭科も専科での取組をしているが、学年の4～5学級の中で、まずは得意教科を活かした教科担任制の導入ができればと考えている。

## 3 連絡

- ・ 12月教育委員会 12月21日(月) 15時～17時 開催予定